



# 秋田と関西との つながりの深化へ

[秋田市観光クチコミ大使]

日本銀行大阪支店 副支店長

むら

くに

さとし  
聡氏

秋田から大阪に転勤となり、はや1年が過ぎました。大阪というとたこ焼きやお好み焼き、あるいはお笑いのイメージが強いかもしれませんが、商都としての歴史の厚みや上方落語や文楽など独自の文化を有する街です。

ここ大阪は、江戸時代から明治にかけて続いた北前船の終着地であり、歴史的には秋田とも経済的なつながりの深い地です。明治期に入り、五代友厚や渋沢栄一らの尽力により、1878年に大阪株式取引所と大阪商法会議所（現在の大阪商工会議所）が設立され、翌1879年にはわが国初の手形交換所が設立されています。繊維産業を中心に興隆した大阪は、「東洋のマンチェスター」と称され、明治中期には、東京の人口を上回った時期もあったそうです。他方、鉄道網や道路の整備と共に、ヒトやモノの流れも変わり、日本海や秋田とのつながりといった観点でみると、互いの距離は遠くなっているように感じます。実際、東京には秋田県のアンテナショップや稲庭うどんの専門店もありますが、大阪では比内地鶏のお店をたまに見かける程度です。

ただ良い話もあり、この5月から、大阪を代表する百貨店で秋田の和菓子の販売が開始されました。また、行きつけのスーパー近くの酒屋さんに立ち寄った際に、店主が手書きPOPで秋田の日本酒を推しているのを発見！4合瓶が20本程並んでいたのですが、翌週に同じ店に行くと最後の1本（私が購入）にまで急減。ここ大阪にも、秋田の日本酒の良さを理解しているファンが確実にいることを知りました。秋田からみると、全国への販路はまずは仙台、次に東京が一般的かと思いますが、秋田の物産が珍しい大阪にも、販路拡大の

チャンスがあるように思います。

大阪の方に聞くと、秋田県に一度も行ったことがない方が非常に多いように感じます。夏は蒸し暑く、冬も殆ど雪が降らない大阪の人にとって、夏の避暑地である十和田・八幡平や田沢湖は魅力的ですし、冬の男鹿のなまはげ柴灯まつりや、横手のかまくら、乳頭温泉などの雪見風呂は、特別な体験になると考えています。大阪の伊丹空港から秋田空港までは、わずか1時間半でダイレクトアクセスが確保されています。本年は、「北東北三県大型観光キャンペーン」が開催され、竿燈まつりも3年ぶりに開催されると伺っています。海外旅行はまだちょっとというこのタイミングで、ペントアップ需要の回復と共に、大阪と秋田の交流がさらに深まるよう、秋田市観光クチコミ大使として微力ながら努めてまいり所存です。

最後に、大阪では、2025年に大阪・関西万博が開催されます。大阪・関西万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、脱炭素に関する目指すべき方向性として、「万博におけるカーボンニュートラルの実現及び2050年のカーボンニュートラル社会の提示」を掲げています。万博を機に、秋田から大阪にも多くの人が足を運ぶことで、洋上風力の先進地である秋田と、水素の利活用が進む関西とのつながりが深まり、産業面でも両地域の結びつきが強まっていくことを祈念しています。

## ■略歴

1971年 東京都生まれ

1994年 日本銀行入行

2019年～2021年 秋田支店長

2021年6月～ 大阪支店副支店長